

## 当院における VerifyNow を用いたクロピドグレル内服後の血小板反応性の検討

社会保険 小倉記念病院 循環器科

加藤 雅史、野口 将彦、酒井 孝裕、横井 宏佳、岩淵 成志、野坂 秀行  
延吉 正清

＜背景＞ 現在冠動脈ステント留置後のステント血栓症の予防にはアスピリンとチエノピリジン系薬剤による2剤併用療法が必須である。しかし近年クロピドグレルの効果の個体間多様性が報告されて以降、いくつかの試験でクロピドグレル抵抗性の問題がクローズアップされている。今回我々は、PCI施行患者において、VerifyNowを用いて血小板凝集能の評価を行ったのでここに報告する。

＜方法、結果＞ 当院での PCI 施行患者 184 人に対して、VerifyNow で血小板凝集能の測定を行った。ACS 患者は 32.1%、PPI user は 29.9%であった。平均の P2Y12 Reaction Units (PRU) は 275 であり、欧米の報告と比較するとかなり高い値であった。ACS では PRU  $293 \pm 77.3$ 、Non-ACS では  $266 \pm 95.9$  ( $p=0.09$ )と ACS で高い傾向を認めた。STEMI では PRU  $310.1 \pm 71.2$ 、であり、Non-STEMI/uAP  $271.3 \pm 79.6$ 、non ACS と比較して PRU 値が高い傾向を認めた。PPI user と non user で PRU に有意差は認めなかった。39 人に対して CYP2C19 の遺伝子解析を行ったところ、Extensive metabolizer (EM;\*1/\*1) は 41%、Intermediate metabolizer (IM;\*1/\*2 and \*1/\*3)は 38.5%、Poor metabolizer (PM;\*2/\*2, \*3/\*3 and \*2/\*3)は 20.5%であり、PRU は各々、EM  $238.4 \pm 96.6$ 、IM  $251.1 \pm 84.5$ 、PM  $348.8 \pm 47.2$  であった。

＜結語＞ クロピドグレルへの反応は個体間の差異が大きく、欧米人に比べ日本人では低反応の個体が多い可能性が示唆された。クロピドグレル反応性は CYP2C19 の遺伝子変異により大きく影響されたが、PPI 使用の有無では差異を認めなかった。ACS、特に STEMI の患者では PRU が高値であり、血小板凝集が抑制されにくい状態である可能性が示唆された。VerifyNow を用いた血小板機能モニタリングをどのようにして臨床の現場で活用していくかは、今後の検討課題である。